

# 令和元年度決算のポイント



# 目 次

令和元年度決算の状況	1
令和元年度決算の特徴	2
主な財政指標の推移	6

# 令和元年度決算の状況

## 概況

【会計別歳入歳出決算額及び実質収支】

(単位:百万円)

会計		歳入決算額	歳出決算額	形式収支	翌年度へ繰越すべき財源	実質収支
一般会計		458,043	451,047	6,996	1,156	5,840
特別会計(14会計)		355,619	353,665	1,954	73	1,881
会計		収入額	支出額	形式収支	当年度純損益(税抜)	累積欠損金(税抜)
企業会計 (3会計)	収益的収支	53,857	52,266	1,591	1,084	
	病院	21,657	21,713	△ 56	△ 59	△ 8,590
	資本的収支	18,466	30,296	△ 11,830		
全会計合計		885,985	887,273			

※各会計毎に表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。

※企業会計の資本的収支の不足額は、内部留保資金等に対応した。

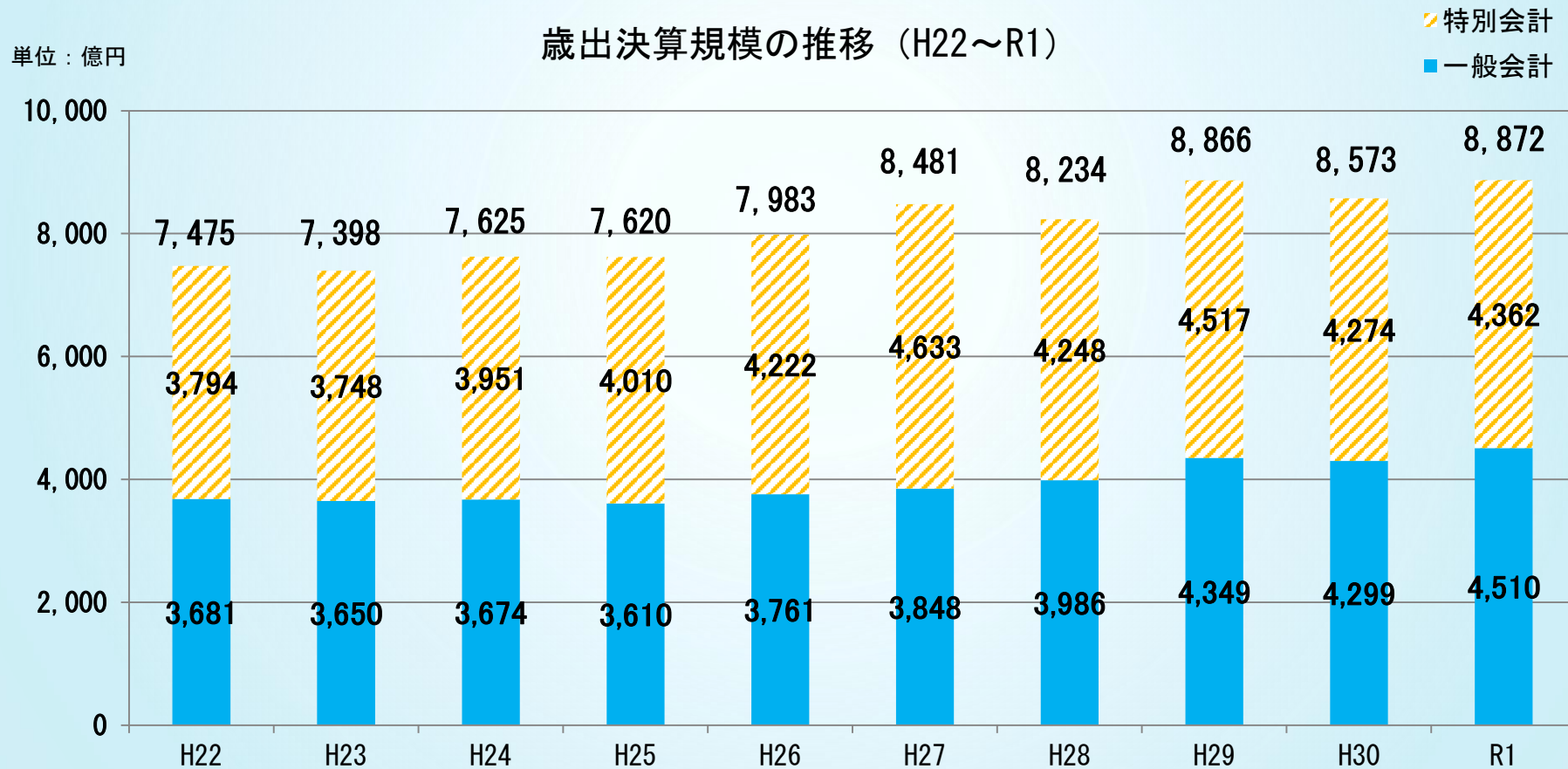
# 令和元年度決算の特徴①

## 決算規模

○一般会計の決算規模は、

歳入 4,580億円（対前年度比 248億円増 5.7%増）

歳出 4,510億円（対前年度比 211億円増 4.9%増）



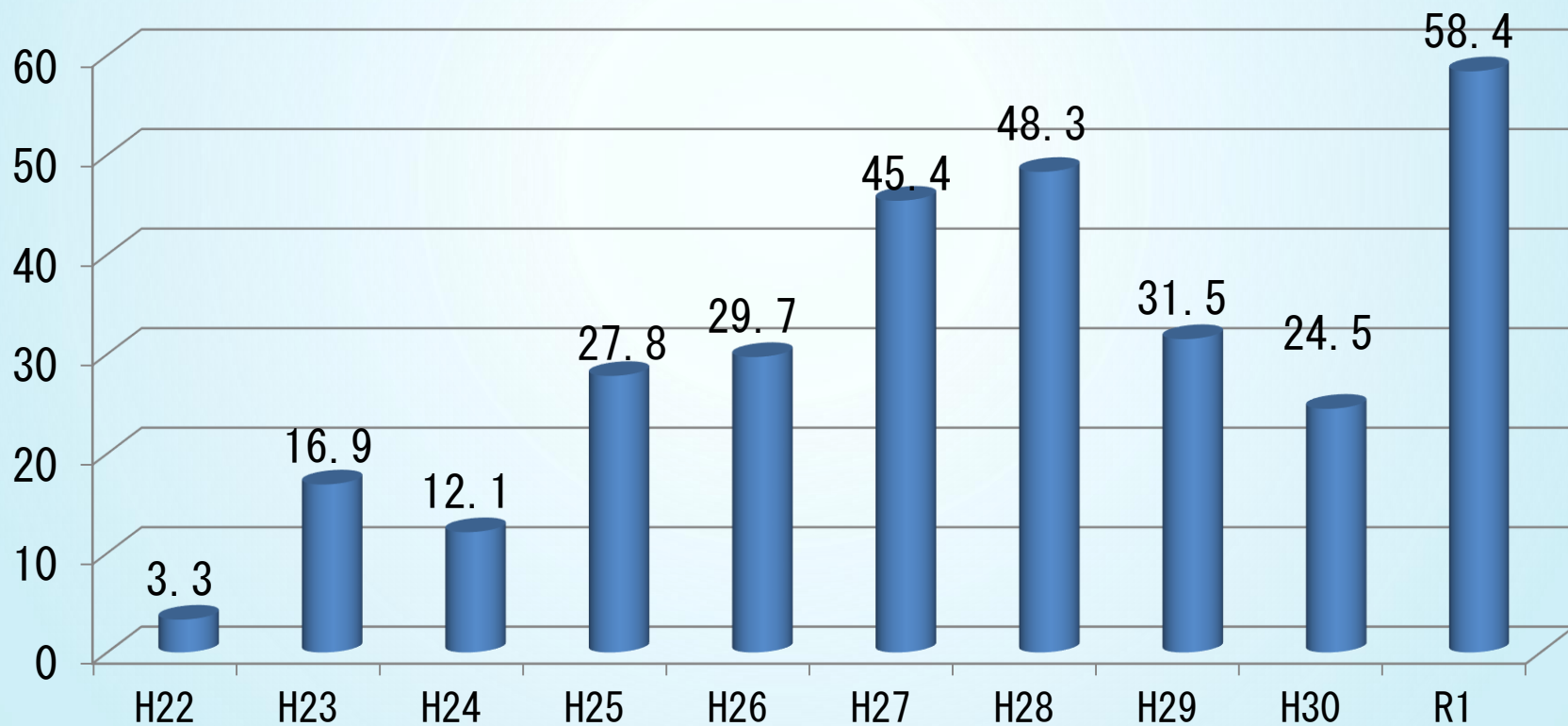
## 令和元年度決算の特徴②

### 実質収支の確保

- 一般会計では、市税や財産収入の増収などにより、58億円の実質収支（黒字）を確保

一般会計実質収支の推移（H22～R1）

単位：億円





# 令和元年度決算の特徴③

## 主要債務総額の削減

○現段階で、令和3年度までの削減目標を超える結果

第3期財政健全化プラン目標(令和3年度) 4,800億円程度まで削減

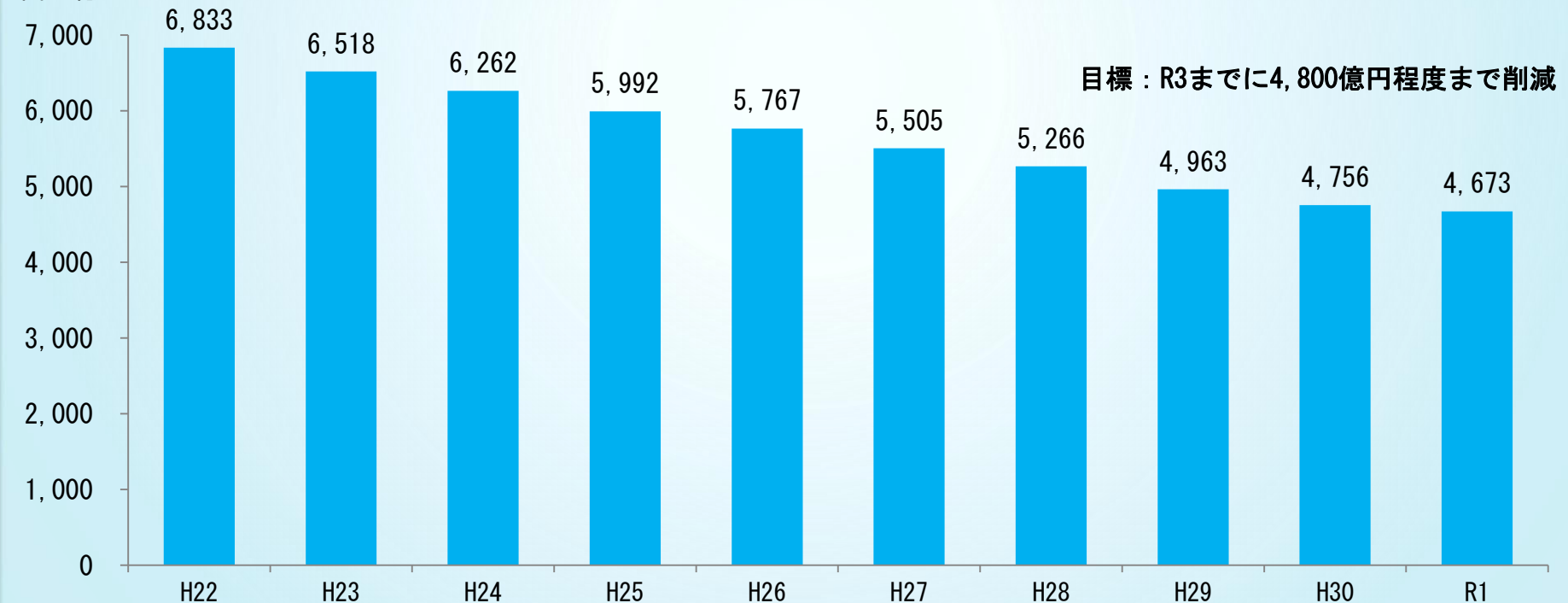
令和元年度取組結果 4,673億円まで削減

【主要債務総額とは】

市の財政に大きな影響を与える4つの債務

- ・建設事業債等残高(普通会計)
- ・基金借入金残高
- ・債務負担行為支出予定額(普通会計・建設事業分)
- ・国民健康保険事業累積赤字額

単位:億円

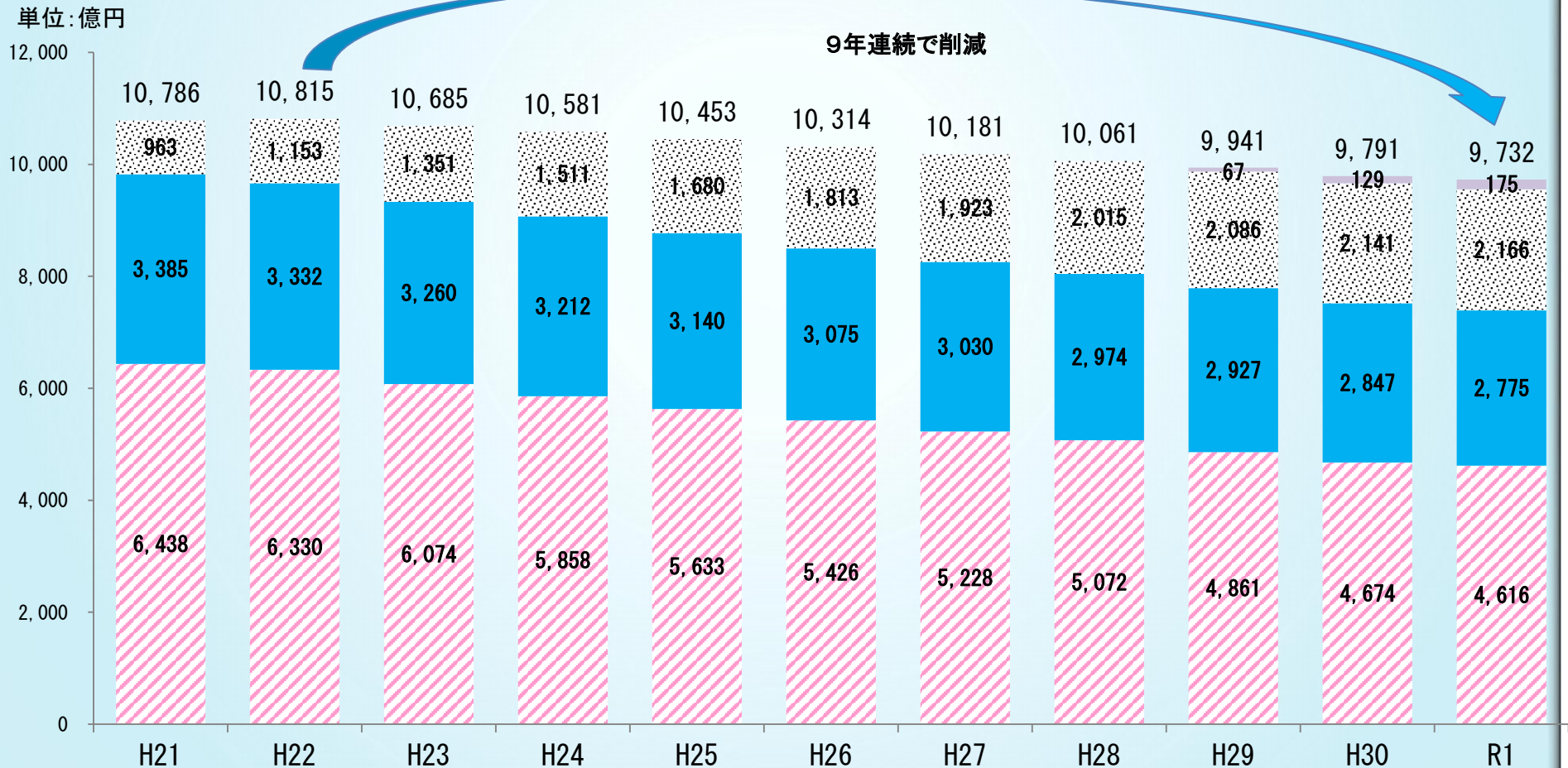


# 令和元年度決算の特徴④

## 市債残高の適正化

○対前年度比59億円の減で、9年連続で削減

■ 普通会計分（臨時財政対策債除く）
 ■ 公営企業分
 ■ 臨時財政対策債（県費分除く）
 ■ 臨時財政対策債（県費分）



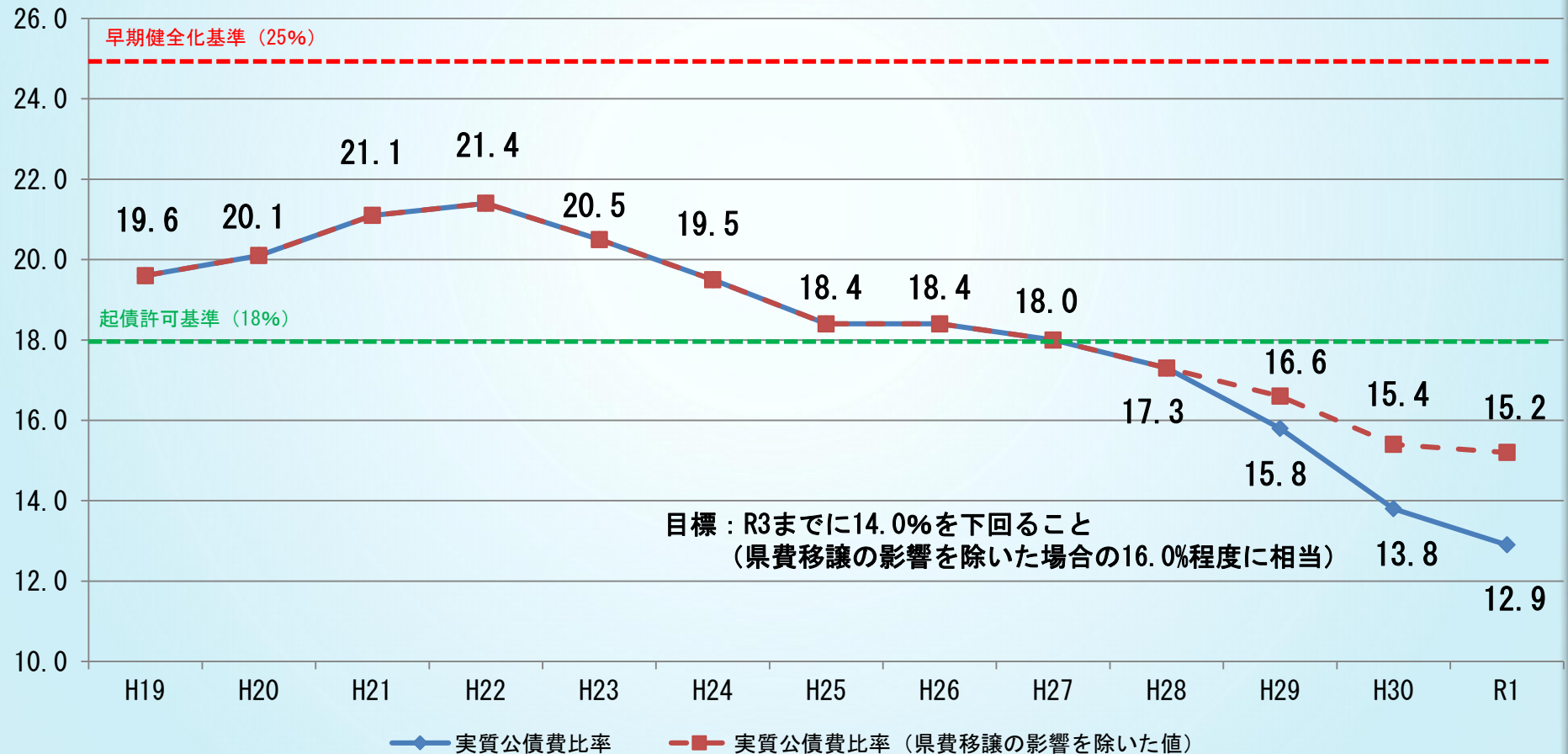
# 主な財政指標の推移①

## 実質公債費比率

(公債費等(地方債の元利償還金等)の標準財政規模に対する割合)

- 実質公債費比率は、引き続き改善(12.9%、対前年度比 $\Delta 0.9P$ )  
(※県費移譲の影響を除くと15.2%(対前年度比 $\Delta 0.2P$ ))

単位:%



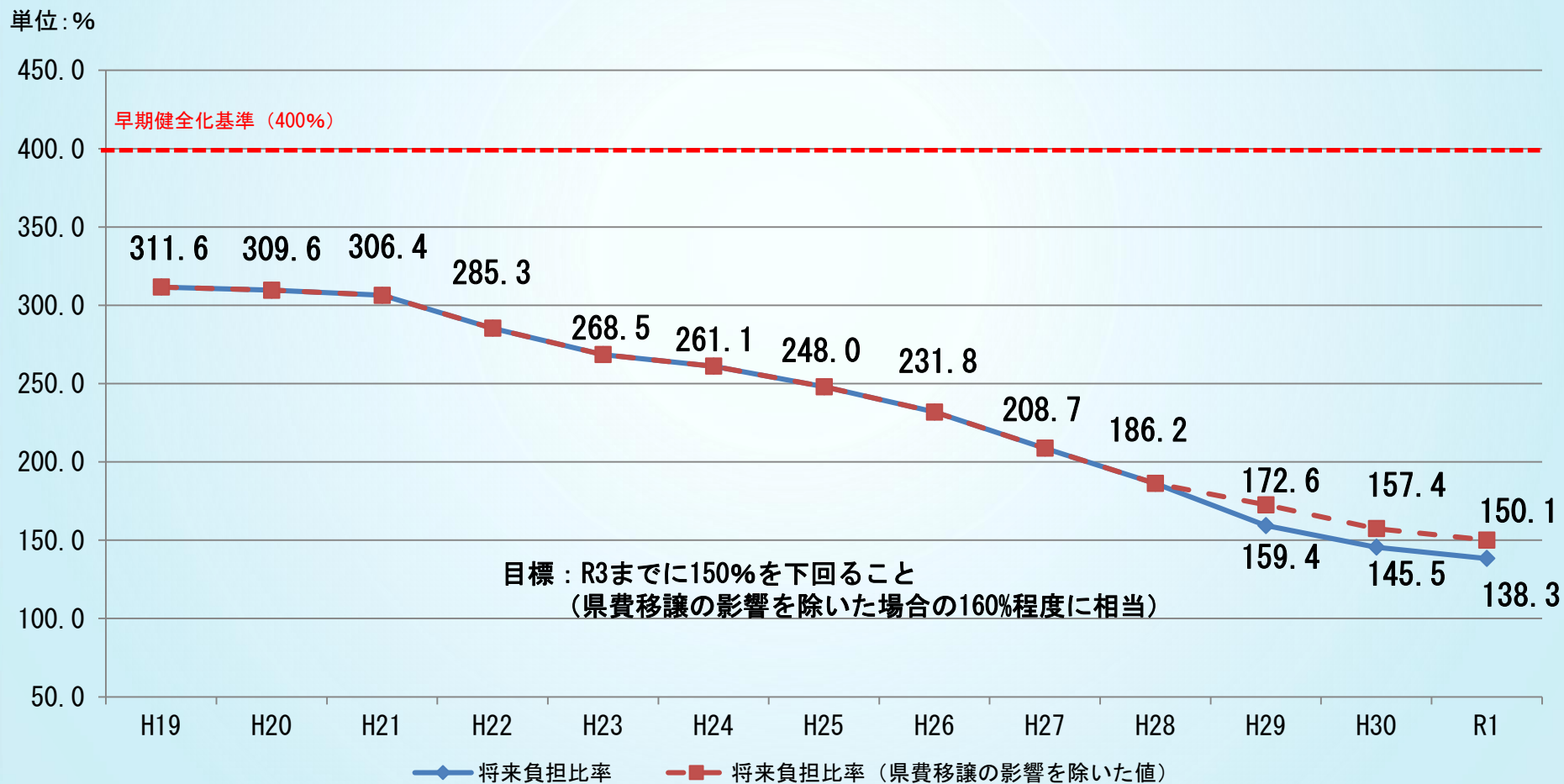


# 主な財政指標の推移②

## 将来負担比率

(将来負担債務の標準財政規模に対する割合)

○将来負担比率は、引き続き改善 (138.3%、対前年度比 $\Delta$ 7.2P)  
(※県費移譲の影響を除くと150.1% (対前年度比 $\Delta$ 7.3P))

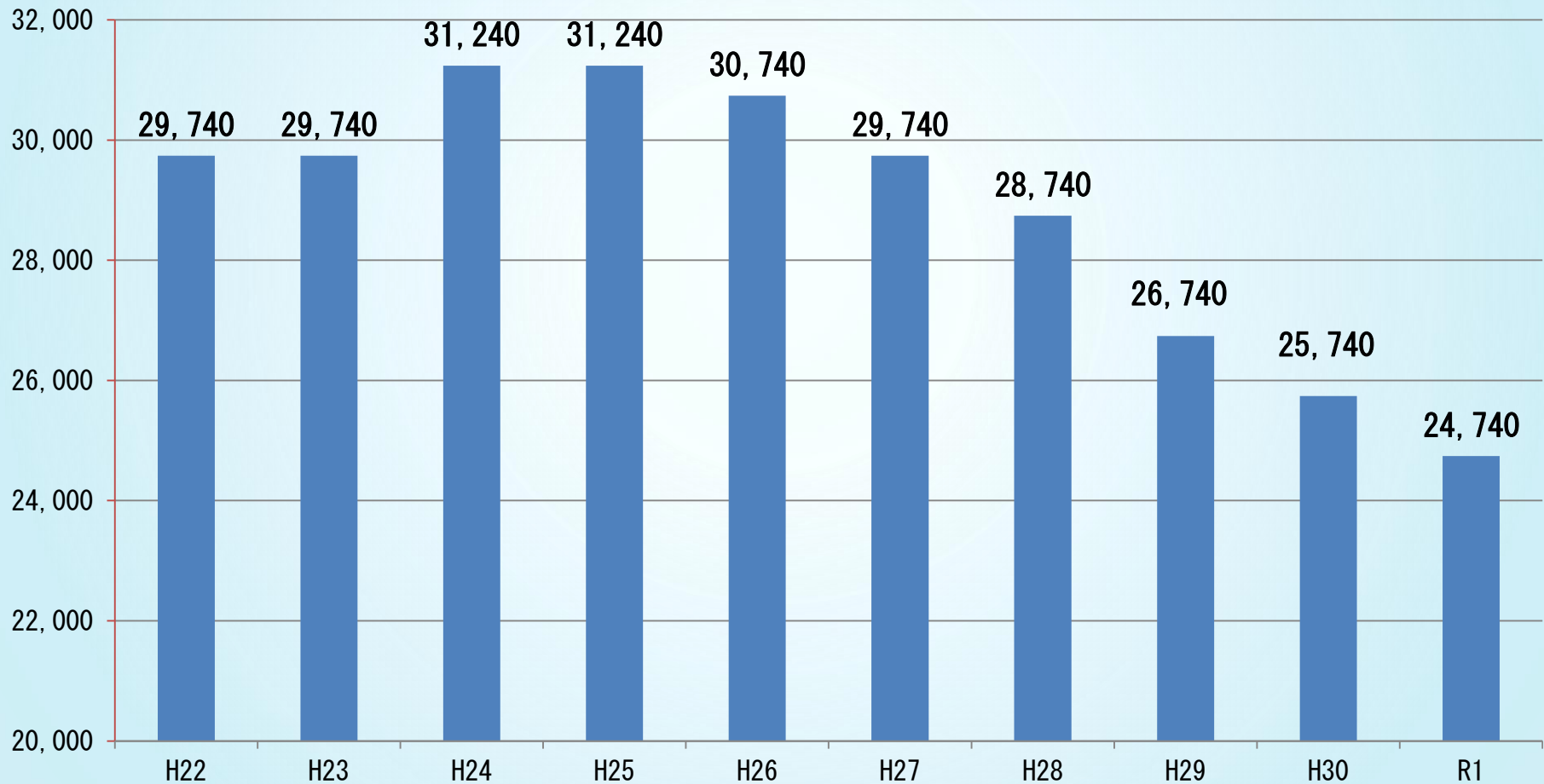


# 主な財政指標の推移③

## 基金借入残高の削減

○主要債務総額のうち、一般会計の収支均衡を図るために実施している基金借入の残高は、着実に削減（対前年比△10億円）

単位：百万円

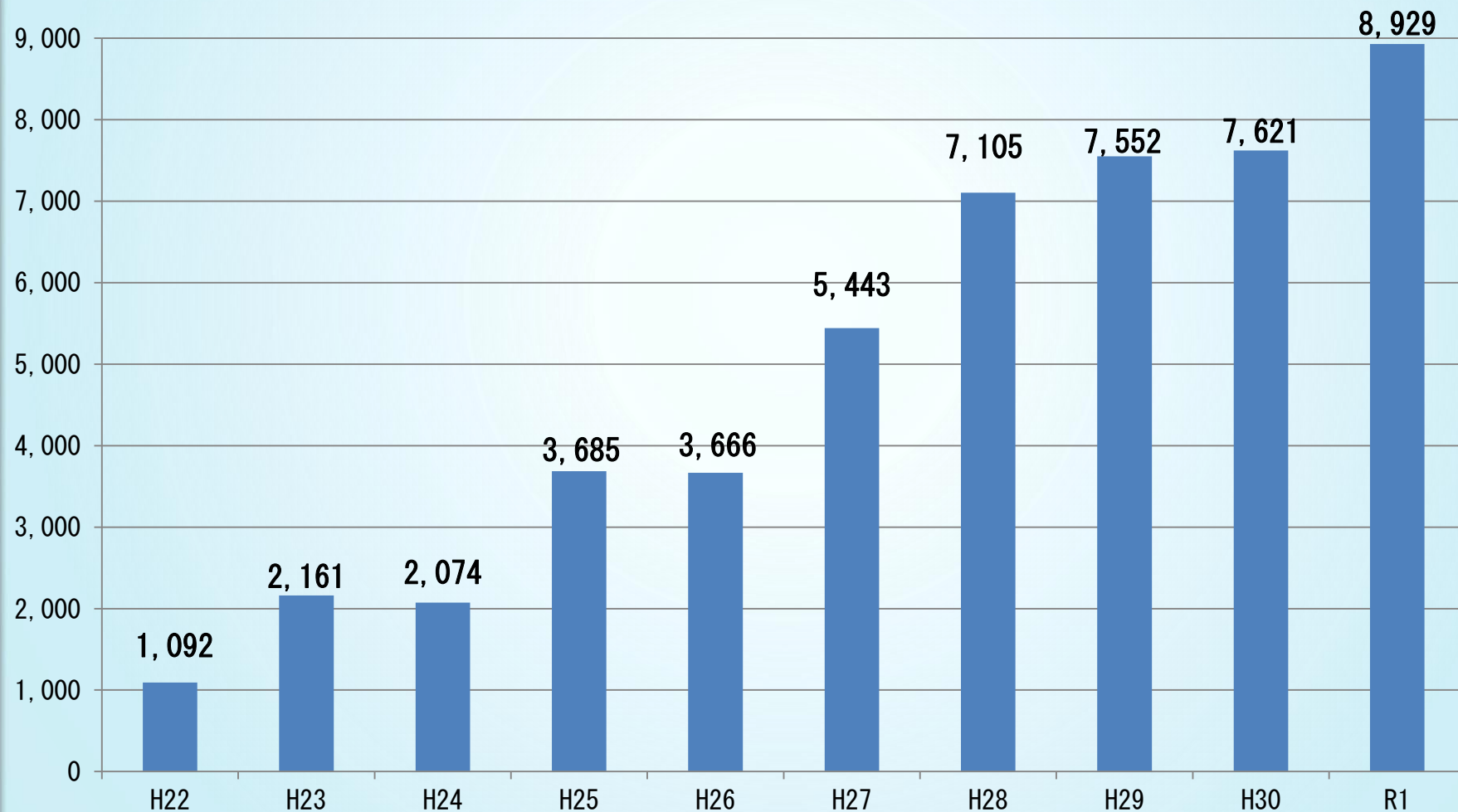


# 主な財政指標の推移④

## 財政調整基金

○年度間の財源調整を行うための財政調整基金残高は、着実に回復

単位：百万円



# 主な財政指標の推移⑤

## 資金不足比率

(公営企業ごとの資金の不足額の事業規模に対する割合)

○対象となる6会計でいずれも資金不足比率の発生はなし

(単位:%)

区分	法適用			法非適用		
	病院事業	下水道事業	水道事業	農業集落排水事業	地方卸売市場事業	動物公園事業
令和元年度	-	-	-	-	-	-
平成30年度	-	-	-	-	-	-
経営健全化基準	20.0					